



代っ子通信

令和7年11月14日
<第38号>
校長 平塚智康

6年生 縁の生活体験合宿

10月30日（木）～31日（金）の2日間、6年生の縁の生活体験合宿が小松市の「里山自然学校 大杉の里」で行われました。合宿のねらいは、日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化等に関心を持ち、集団生活の在り方について考えたり、共に協力しあったりすることです。

1日目は、秋晴れの里山で、ウォークラリー・いわなさばき・レクリエーション活動・館内きもだめし等、2日目は、かまどでご飯炊き・カレー作り・そうじや後片付け等、子どもたちは様々な体験を通して、社会性や仲間との協力・協働について学びました。



＜ウォークラリー＞



＜いわなさばき＞



＜館内きもだめし＞



＜かまどでごはん炊き・カレー作り＞

6年 ○○ ○○

僕はルールやマナー、そして時間を守ることの大切さを学びました。ルールや時間を守ることで素早く行動し、遊ぶ時間が伸びてメリットが多いとわかりました。また、いっぱい友達と遊ぶことで絆が深まりました。僕はこれからも中学の修学旅行などいろんな場面で時間を守ったりすることを常に意識できたらと思います。

そして、命の大切さを学びました。自分はいろいろな命をいただいて成長しているから、イワナを食べた時に「食べ物になってくれてありがとう」と感じました。命への感謝も今後大切にしたいです。

6年 ○○ ○○

合宿の一番の思い出はウォークラリーです。理由は、合宿の最初で楽しみとか不安な気持ちとかがある中の最初の活動だったからよく頭に残っています。ウォークラリーで協力したり支え合いをしたりして問題をときました。あと、最初から最後に行く間にグループの絆が深まったのもいいなと思いました。

今回の合宿では、命や時間、支え合い、絆、礼儀などを大切にし、自分事にして動くことを意識して活動しました。この合宿を生かして、命に感謝したりしていきたいです。支え合ったときの気持ちとかを知ったので、支え合うということを大切にしていきたいです。みんなと絆を深められたから、この絆を壊さずもっと深めていきたいです。礼儀は、相手にどう思われるかが決まると思ったから、礼儀正しく生きていきたいです。自分事として動くことを意識していたけど、まだ甘えていたところがあるのでそこは自分に厳しくしたいです。合宿でもっとこうしたらよいとわかったことがあるので今後どんどん生かしていきたいです。

6年 ○○ ○○

合宿では、「自分事」を大切にしながら行動することができました。自分は班長で、並ぶときに1番前に並ぶので最初に並ばないと班の人が困ると思い、自分事として班のみんなのことを考えながら動くことができました。そして、班長としてみんなが楽しい合宿になるようすばやい行動ができたのでよかったです。1番の思い出は、「いわなさばき」です。命の大切さを知ることができたし、自分でさばいたいわながとてもおいしかったからです。

卒業までに学校生活で大切にしたいことは、クラス全員の「いいところ」を見つけられるようにすることです。また、大杉で学んだ5分前行動や声かけを普段の生活や学校生活に生かし、卒業式の時に下級生たちから尊敬されて「あんな6年生になりたい」と言ってもらえるようになりたいです。

6年生親子行事～九谷焼絵付け体験～

11月7日（金）、6年生の「非行被害防止講座」と親子行事「親子で楽しもう！九谷焼の絵付け体験＆伝統文化クイズ大会」が行われました。

親子行事では、加賀市が全国に誇る伝統文化である九谷焼の絵付けを親子で体験し、親子や保護者同士の交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。さすが6年生、すてきな作品がたくさんありました。一生残る思い出になりますね。焼き上がりが楽しみです。

親子行事に際し、6年学年委員長の藤森さん、副委員長の小畠さんをはじめ、学年委員の皆様には準備・運営・片付け等お世話いただきありがとうございました。また、九谷満月様には、材料の準備や絵付け指導等、地元の山代小のためにとたくさんの便宜を図っていただきました。感謝申し上げます。

